サイエンスチャレンジ岡山2026
兼　第16回科学の甲子園全国大会　岡山県予選会

○　日　程

令和８年１０月３１日（土）

９：００～　９：３０	受付
９：３０～　９：５０	開会式
１０：０５～１１：０５	筆記競技
１１：２５～１２：４５	実技競技①、②
１３：３０～１４：５０	実技競技③
１５：０５～１５：５０	サイエンスレビュー サイエンスシェアリング
１５：５０～１６：１０	閉会式

○　会　場

就実大学　体育館等

（岡山市中区西川原１丁目６－１）

岡山県教育委員会

サイエンスチャレンジ岡山2026
兼　第16回科学の甲子園全国大会　岡山県予選
実施要項

１　目　　的　　科学に興味関心が高い高等学校等の生徒が、団体で協力して科学技術・理科・数学等における複数分野の競技に取り組むことを通して、科学に関する更なる興味関心の高揚及び学力の向上を図る。

２　主　　催　　岡山県教育委員会

３　協　　力　　岡山ＳＳＨ成果普及委員会

４　大会運営　　サイエンスチャレンジ岡山実行委員会

５　期　　日　　令和８年１０月３１日（土）

６　場　　所　　就実大学　体育館　等
（岡山県岡山市中区西川原１－６－１）

７　内　　容　　学校ごとにチームをつくり、各出場チームが競技ごとに定められた複数人からなる競技チームを構成し、当該競技チームが問題等を分担、相談するなど協働して成果を創出し、その成果を競い合う。

８　参加条件
（１）県内の高校第１学年、第２学年の生徒（中等教育学校後期課程及び高等専門学校にあっては同年次の生徒又は学生）であること。
（２）同じ学校の生徒６人～８人でチームを構成すること。
（３）各校２チーム以内とする。
（４）参加する生徒が在籍する学校の教員が必ず引率すること。
（５）参加する生徒が在籍する学校から、引率者とは別にサイエンスチャレンジ岡山実行委員会に教員１名を大会の企画、運営のために派遣すること。

９　参加費用　　無料
ただし、交通費や昼食代などは自己負担とする。
練習用の材料費等は支給しない。

10　参加申込
（１）参加を希望する学校は、校長の了承のもと、「参加申込書」を所定の方法で提出すること。
（２）申込期限　エ　ン　ト　リ　ー：令和８年５月１９日（火）
参加メンバーの登録：令和８年９月１８日（金）

11　競技の種類

大会競技は筆記競技と実技競技とし、詳細な競技規定は別に定め、参加校に連絡する。

（１）筆記競技＜１競技　競技者数６人／１競技＞

筆記競技は、理科、数学、情報の中から、知識を問う問題及び知識の活用について問う問題で競うものとする。なお、教科・科目の枠を超えた融合的な問題も出題され得る。

（２）実技競技＜３競技　競技者数３人～６人／１競技＞

ものづくりの能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等を用いて課題を解決する力を競うものとする。

12　順 位 決 定

競技ごとに順位による得点を与え、得点の合計により総合順位を決定する。

13　「第16回科学の甲子園全国大会」出場校

科学の甲子園全国大会は、文部科学省が推進する次代を担う科学技術人材の育成に関する施策の一環として、国立研究開発法人科学技術振興機構（ＪＳＴ）が開催する科学の競技会で、高等学校第１学年、第２学年（中等教育学校後期課程及び高等専門学校にあっては同年次の生徒又は学生）に在籍する生徒６～８人が協働して複数の競技に参加し、順位を競う。

サイエンスチャレンジ岡山の総合順位が１位のチームが属する学校を「第16回科学の甲子園全国大会」の出場校とする。

14　そ　の　他

（１）主催者又は主催者が取材を許可した報道機関等が競技会場において撮影した写真や映像が、ホームページやマスコミ報道などで公開されることがある。

（２）事前に連絡する競技内容は、予告の上、変更する場合がある。

サイエンスチャレンジ岡山 2026
競技規定

【競技全体】

●大会の実施

岡山県教育委員会が主催し、サイエンスチャレンジ岡山実行委員会の運営により、岡山ＳＳＨ成果普及委員会の協力を得て開催します。

●出場チーム

高校生：県内の２３校、３７チームが参加します。（１チームは６人以上８人以内）

（岡山朝日高校、岡山操山高校、岡山芳泉高校、岡山一宮高校、岡山城東高校、西大寺高校、瀬戸高校、倉敷青陵高校、倉敷天城高校、倉敷南高校、倉敷古城池高校、玉島高校、倉敷工業高校、津山高校、玉野高校、総社南高校、勝山高校、林野高校、岡山大安寺中等教育学校、創志学園高校、岡山理科大学附属高校、岡山学芸館高校、岡山白陵高校）

中学生：サイエンスチャレンジ岡山ジュニアの優秀３チームが参加します。

●競技の種類と形式

種目、競技者数及び競技時間は次のとおりです。
実技競技①と②は同じ時間帯で行います。

種目	競技者数	競技時間
筆記競技	６人	６０分
実技競技①	３人	８０分
実技競技②	３人	８０分
実技競技③	６人	８０分

１　筆記競技

理科、数学、情報の中から、知識を問う問題及び知識の活用について問う問題で競います。なお、教科・科目の枠を越えた融合的な問題も出題されることがあります。通常のテストと違うのは６人で相談するなど協働して解いてもよいということです。

２　実技競技

【実技競技①化学・物理分野】「めざせ！滴定マイスター」

酸化還元滴定を利用して、試料中のヨウ素やビタミンＣ（L-アスコルビン酸）の濃度や含有量を求める競技です。当日配付される「分析結果報告書」への実験結果の記録や実験操作、試料中のヨウ素やビタミンＣの濃度や含有量の精度を競います。実験の技術、実験結果の考察、チームワークがポイントです。順位とは別に、最も優秀な予備実験レポートには特別賞として「ダヴィンチ賞」も準備しています。

なお、「ダヴィンチ賞」を受賞したチームを、令和９年１月 29 日に開催する「岡山県理数科理数系コース課題研究合同発表会」に招待します。表彰したレポートを基にポスター発表をしていただきます。

【実技競技②生物・地学分野】「フィールドワーク in 就実大学」

就実大学構内の所定エリアをフィールドとし、生物・地学に関する問いを中心にフィールドワークを通して解答します。

【実技競技③工学分野】「ゼロボンド・エンジニアリング」

身近にある輪ゴム・割り箸と紙（Ａ４コピー用紙）を材料に、「玉入れ」「橋」の２種目に挑戦します。２つの種目の総合点で順位を競います。なお、「玉入れ」では、順位と別に、創造性・独創性・機能美等の観点から評価を行い、最も優れた作品に審査員特別賞「匠賞」を授与します。

●持参物

体育館シューズ、下足袋、昼食、その他各競技で必要なもの

●順位決定

競技ごとに順位による得点を与え、合計得点により総合順位を決定します。
合計得点が同点となった場合は、各競技の順位の合計が小さい方を勝者とします。

順　　位	筆記競技	実技競技①	実技競技②	実技競技③
１位	１８０点	１００点	１００点	１００点
２位	１６０点	９０点	９０点	９０点
３位	１４０点	８０点	８０点	８０点
４位	１２０点	７０点	７０点	７０点
５位	１００点	６０点	６０点	６０点
６位 ～ 10位	８０点	５０点	５０点	５０点
11位 ～ 15位	６０点	４０点	４０点	４０点
16位 ～ 20位	４０点	３０点	３０点	３０点
21位 ～ 30位	２０点	２０点	２０点	２０点
31位 ～ 45位	１０点	１０点	１０点	１０点

●表彰

競技ごとに５位までを表彰します。

総合順位は、５位までを表彰し、総合順位が１位のチームが属する学校を「第16回科学の甲子園全国大会」への出場校とします。

実技競技①においては特別賞「ダヴィンチ賞」を、実技競技③においては特別賞「匠賞」を授与します。

●その他

1　当日は係員の指示に従ってください。係員の指示に違反した場合や不正行為があった場合は失格とし、その競技の得点を０点とします。

2　競技中、競技者は競技ごとに当日指定される競技エリアの外に出ることはできません。また、競技者以外は競技エリアに入ることはできません。

3　携帯電話（スマートフォン）等を競技中に使用することを禁止します。電源を切り、カバンの中に入れてください。

4　昼食は指定された場所でとってください。ただし、食事の提供はありません。なお、体育館フロアでは水分補給のための飲み物を持ち込むことはできますが、ふたのない容器での持ち込みは禁止します。

5　チーム番号及び机は、実行委員会が事前に行うくじにより決定します。

6　競技者の変更は、なるべく早く県教育庁高校教育課指導班まで連絡してください。
ただし、１０月１７日（金）以降の変更は原則できません。

【筆記競技】

理科、数学、情報の中から、知識を問う問題及び知識の活用について問う問題で競います。なお、教科・科目の枠を越えた融合的な問題も出題されることがあります。通常のテストと違うのは６人で相談するなど協働して解いてもよいということです。

●利用可能な文房具等（予定）

☐ 筆記用具　☐ 三角定規　☐ コンパス　☐ 分度器
☐ 電卓（関数機能を備えていないもの　ルート計算は可）

●審査について

1　採点は定められた基準で行います。採点基準は公表しません。
2　すべての解答用紙について、学校名、チーム名、チーム番号を確認してください。また、解答用紙は必ず、指示されたとおりに提出してください。違反した場合は採点をしない（０点となる）場合もあります。

●解答要領

〇競技前

1　指定された座席に競技開始５分前までに着席してください。
2　問題用紙及び解答用紙は封筒に入っています。開始前に、指示に従って封筒の所定欄の学校名、チーム名、チーム番号を確認してください。指示があるまでは封筒の中を見てはいけません。

〇競技中

1　開始の合図があったら、封筒の中に入っている問題用紙及び解答用紙に異常がないか（枚数、印刷の乱れ）を確認して、不備があれば手を挙げて係員に申し出てください。
2　すべての解答用紙について、学校名、チーム名、チーム番号を確認してから解答を始めてください。
3　チーム内での相談はいつでもできます。ただし、他のチームの解答の妨げになるような場合は、発言を制限することがあります。（その際は筆談で意志疎通を図ること）なお、注意に従わない場合は退場してもらうこともあります。
4　解答欄の枠外に書かれたものや、判別がつきにくい文字等は採点の対象外とします。
5　チームでの解答用紙の整理時間などは解答時間に含めます。
6　競技中、競技者以外はアドバイスをすることはできません。言葉、文字、身振り、メール等のいかなる方法も禁止します。

〇競技後

1　終了の合図があった後は、解答用紙には一切の記入ができません。
2　問題用紙及び解答用紙などは、すべて封筒に入れて提出してください。

筆記競技は非公開です。

【実技競技①化学・物理分野】「めざせ！滴定マイスター」

酸化還元滴定を利用して、試料中のヨウ素やビタミンＣ（L-アスコルビン酸）の濃度や含有量を求める競技です。当日配付される「分析結果報告書」への実験結果の記録や実験操作、試料中のヨウ素やビタミンＣの濃度や含有量の精度を競います。実験の技術、実験結果の考察、チームワークがポイントです。また、次に示す「試薬」と「準備物」および「競技内容等」を参考に、事前に A3 の予備実験レポートを作成して持参してもらいます。

競技による順位とは別に、最も優秀な予備実験レポートには特別賞として「ダヴィンチ賞」も準備しています。なお、「ダヴィンチ賞」を受賞したチームを、令和９年１月 29 日に開催する「岡山県理数科理数系コース課題研究合同発表会」に招待します。表彰したレポートを基にポスター発表をしていただきます。

●日程

開会式開始前まで	事前に作成した予備実験レポート２部を、各チームの机上に提出する。

（競技時間８０分）

競技開始前	実験器具の机上準備
５分	競技内容説明
６５分	競技
１０分	実験器具の片付け、分析結果報告書の提出

●主催者が準備する試薬・器具

ⓐ うがい薬　　50 mL　（ヨウ素濃度 3.0×10^{-2} mol/L 以下）
ⓑ 0.5%ビタミン C（L-アスコルビン酸）水溶液　50 mL（密度：0.99 g/mL）
※0.5%ビタミン C（L-アスコルビン酸）水溶液の密度は上記の値で一定であるものとする。
ⓒ ビタミン C を成分として含む試料溶液　　100 mL
（溶液 100 mL 当たりのビタミン C 含有量 500 mg 以下）
ⓓ ビタミン C を成分として含む錠剤　　３粒
ⓔ 指示薬（１%デンプン溶液）　30 mL
※各溶液中のビタミン C（L-アスコルビン酸）$C_6H_8O_6$ はうがい薬中のヨウ素 I_2 とのみ、次式の通り反応するものとする。

$$C_6H_8O_6 \rightarrow C_6H_6O_6 + 2H^+ + 2e^-$$
$$I_2 + 2e^- \rightarrow 2I^-$$

○ 電子天秤（電池式：0.01 g 単位まで計量可能）

●必ず持参する準備物

① 滴定に使用する実験器具
② 薬包紙
③ 洗瓶（精製水 500 mL）
④ 安全ピペッタ
⑤ 安全めがね（人数分）　※貸し借りは不可
⑥ ウェットティッシュなど手拭き
⑦ シート　机（長机２台分　約 90cm×180cm）の上に敷くもの　１枚
⑧ 予備実験レポート　２部 A3
⑨ 掃除道具　ぞうきん、ゴミ袋　等
⑩ 廃液入れ（競技中に生じた廃液を一時的に貯めることができる容器。廃液は片付けの際、会場で回収します。）

●持参することが可能な準備物

① 白衣
② 事前に行った実験ノート等
③ 電卓

●競技内容等

○滴定部門

うがい薬とビタミン C（L-アスコルビン酸）またはビタミン C を含む試料を用いた酸化還元滴定を行います。当日配付される「分析結果報告書」に実験結果をまとめ、試料中のヨウ素やビタミンCの濃度や含有量を求め、精度と実験技能を競います。

＜評価の観点＞

【① 精度】：基準値（本部測定値）との誤差、再現性

【② 実験技能】：実験操作（器具の取り扱い、目盛りの読み取り等）、分析結果報告書の記録状況

＜評価方法＞

【① 精度】と【② 実験技能】の得点の【合計】を評価する。

最高得点は　【① 精度】150 点　＋　【② 実験技能】50 点　＝　【合計】200 点

【① 精度】

（ⓐ～ⓓの実験値から得られた順位点）

ⓐ：うがい薬中のヨウ素の濃度
ⓑ：0.5％ビタミン C（L-アスコルビン酸）水溶液の濃度
ⓒ：ビタミン C を成分として含む試料溶液中のビタミン C の濃度
ⓓ：ビタミン C を成分として含む錠剤中のビタミン C の含有量

・実験値と基準値（本部測定値）との誤差（有効数字２桁）を評価する。
・合計得点が同じ場合は、分析結果報告書を基に、再現性（実験結果の信頼性など）の観点から順位付けを行う。

【② 実験技能】

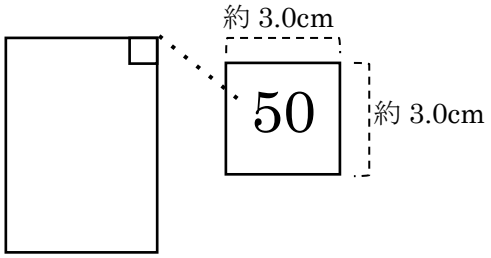
以下＜評価の観点＞を基に得点化する。

＜評価の観点＞

・安全にかつ協力し、的確に実験操作（器具の取り扱い、目盛りの読み取り等）を行っているか。
・分析結果報告書に実験結果を適切に記録しているか。

○レポート部門

滴定に関する探究記録を記した予備実験レポートについて、各項目を総合的に評価し、ダヴィンチ賞（１チーム）を授与する。



＜ルール＞

・A3 片面、縦向き
・カラー印刷可
・２部持参
・紙面右上隅に図のような「チーム番号を示すシール（当日配付）」を貼る。
・開会式開始までに会場の各チームの机上に提出する。

＜評価の観点＞

① 科学的・論理的思考力
② 試行回数の整理・再現性
③ レポートの完成度、見やすさ
④ 工夫点・アイデア

●諸注意

1　精製水を除き、主催者が準備する試薬以外を使用できません。
2　実験に使用する「器具」及び「精製水」は、各チームで必要数量を持参してください。器具の容量、数量等は特に規定していません。
3　電卓と主催者が準備する電子天秤以外の電気器具やセンサは使用できません。
4　安全のため、必ず安全めがねを全員着用とします。各チームで安全めがねを持参してください。
5　ホールピペットを使用する際には、安全ピペッタを使用することとします。安全ピペッタは各チームで持参してください。
6　研究に使用してきた実験ノートや印刷した事前レポートは持ち込んでもかまいません。
7　火気の使用は厳禁です。
8　白衣を準備可能なチームは、実験中は白衣を着用してください。
9　天秤（電池式：0.01 g 単位まで計量可能）は事務局で準備します。

●禁止行為

次の行為があった場合は、失格となる可能性がありますので十分注意してください。
1　他のチームの競技を妨げる。
2　競技中に競技者以外と競技に関する会話を行う。
3　競技中に携帯電話やスマートフォン等を使用する。
4　競技中に他のチームのテーブルに近づき操作等を見る。
5　競技中に競技エリア内を走って移動する。
6　係員の指示又は注意に従わない。

【実技競技②生物・地学分野】「フィールドワーク in 就実大学」

就実大学構内の所定エリアをフィールドとし、生物・地学に関する問いを中心にフィールドワークを通して解答します。

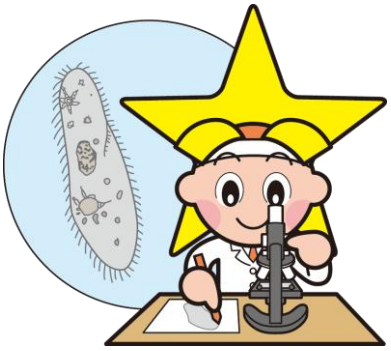
●会場（雨天時も）

○ 集合・解答提出場所：就実大学　　A 館-D 館間
　※ビブスを着用すること
○ 問題解答場所：就実大学構内（当日指示します）

●持ち物等

○ 筆記用具
○ 時計（計時機能のみ）
○ カッパ、傘等の雨具（雨天時）、タオル
○ ビブス（参加人数分）、下足袋
○ 事前課題の分光器

※競技中は携帯電話（スマートフォン）等の使用を禁止します。
　競技前に引率の先生に渡してください。



岡山県マスコット
ももっち

●競技内容

制限時間内に、所定エリア内で複数の設問に解答し、正答数等によって、「実技競技②」の順位を決定します。

今年度は、設問の１題として事前課題を設定しています。「【実技競技②】事前課題について」に従って課題に取り組み、作成物を当日持参してください。

●昨年の出題例

・ゴミの分別　・岩石の判別　・チリモン探し　・香り(植物)の判別
・自作望遠鏡を用いた出題　他

【注意事項】
① 安全面に十分配慮し、危険な行為をしてはいけません。
② 各チームのメンバー全員がそろって行動・相談して解答すること。
③ 指定された範囲内のみで活動すること。
④ 競技中の携帯電話（スマートフォン）等の使用や競技者以外の者（引率教員も含む）に助言を求める等は禁止します。
⑤ 規定の時間までに A 館-D 館間に戻り、解答用紙を提出しないと得点となりません。
⑥ A 館-D 館間に早めに戻り、メンバーと相談して解答しても構いません。
⑦ 競技中のトイレや水分補給は自由とします。

【実技競技②】　事前課題について

●事前課題タイトル　「分光器で溶液の透過光を観測しよう」

●競技規定

・事前に「分光器」を作製し、サイエンスチャレンジ当日に持参すること。
（分光器には、チームナンバー・チーム名を消えないように明記すること。）

① 分光器の本体について
・紙製に限る。

② 使用する材料について
・身近にある物を使って制作すること。
・市販の作成キットの使用は不可。

③ 分光器の大きさ
・特に定めないが、競技中に持ち歩ける大きさであることが望ましい。

④ 安全面
・鋭利な部分が露出しないように処理すること。
・目に当てる部分は段ボール・布・発泡材などでカバーすると望ましい。

●競技方法

・実技競技②（フィールドワーク）において使用する。
・溶液の透過光を分光器で観測し、問題に答えてもらいます。

●評価規定

・上記の「競技規定」を満たした分光器であること。
（競技規定を満たしていないものは、評価対象とはしません。）
・協議終了後のサイエンスシェアリングで展示をしてもらう予定です。

●注意事項

・競技終了後、分光器は持ち帰ってもらいますので、分光器を入れる袋等の準備を忘れないようにしてください。

【実技競技③工学分野】「ゼロボンド・エンジニアリング」

身近にある輪ゴム・割り箸と紙（Ａ４コピー用紙）を材料に、「玉入れ」「橋」の２種目に挑戦します。２つの種目の総合点で順位を競います。なお、「玉入れ」では、順位と別に、創造性・独創性・機能美等の観点から評価を行い、最も優れた作品に審査員特別賞「匠賞」を授与します。

●材料（主催者が準備し、当日配付します。）

すべての材料を用いる必要はありません。なお、接着剤やテープ等は一切使えません。

＜玉入れ＞

□ 輪ゴム　　１箱（オーバンド　№18　）

□ 割り箸　　50 膳（元禄箸　アスペン材　20.3ｃｍ）

＜橋＞

□ Ａ４コピー用紙　　30 枚（規格　64～68g/m^2 の範囲のもの）

●器具等

□ 保護めがね

・競技者全員が作業を含めた競技中に使用します。人数分を持参してください。

□ 実験ノート

・設計等を記したノートを持ち込むことができます。記載内容に制限はありません。

□ 道具等

・手動の工具（ハサミやカッターナイフ、ノコギリのように切ったりできるもの、キリや千枚通しのように穴を開けたりできるもの、定規のようにまっすぐ切ったり長さを測ったりするもの、その他必要なもの※）のみ持ち込むことができます。

工具を使用する場合はカッティングマット等を必ず持参し、机等を傷つけないよう注意してください。また作業する際には軍手等を活用することも考えられます。

※「針なしステープラー」のように、複数枚の紙を圧着したり、切って折り込んだりするような機能のあるものの持ち込み・使用は、創意工夫の促進の観点から禁止とします。

□ ビブス

・相互審判をする際、審判員となるメンバー（１名）が着用します。

●競技内容

・実技競技③は「玉入れ」「橋」の２種目で構成されます。配点は、「玉入れ」100 点、「橋」100 点とし、合計得点（200 点満点）で順位を競います。

・合計得点が同じチームがある場合には、未使用の割りばし（元の状態であるもの）の残数が多いチームを上位とします。

・各種目には、配付された材料のみを用いてチャレンジします。各種目の計測は指定された時間帯に実施します。

・実技競技③の開始後 10 分間は、製作だけを行う時間とします。

・「玉入れ」の発射台は、「匠賞」の審査を受けます。

○第１種目「玉入れ」

配付された材料だけで卓球のボール（ピンポン玉：プラスチック製　直径 40㎜　2.7g）を飛ばす発射台を作り、30 秒間発射した後、２ｍ先にあるカゴに入ったピンポン玉の数で得点を競います。

・【玉入れの得点】＝【カゴに入ったピンポン玉の数（個）】×10 とします。ただし、【玉入れの得点】が 100 点を超えた場合は、一律 100 点とします。

・競技時間の「30 秒」には、ピンポン玉の設置にかかる時間も含めます。

・カゴは次のとおりとします。

　買い物かご　幅 約 51cm × 奥行 約 36cm × 高さ 約 25cm

・発射台は複数種類作成しても構いません。

・発射台は自立し、すべての発射台が１枚のＡ３サイズの発射位置に設置できるものとします。

・発射台の設置後、発射者・補助者によって発射台を浮かせてはいけません。

・発射位置とカゴを設置する位置はほぼ同じ高さです。

・発射台それぞれについて、ピンポン玉の発射は１名が行いますが、補助をする者を１名まで配置しても構いません。

・補助者は、複数の発射台の補助をしても構いません。

・発射者及び補助者ともに、発射台とカゴとの間に立ち入ることはできません。

・発射の動力は、ゴムの弾性力のみとします。

・ピンポン玉を発射台に設置後、ピンポン玉に手が直接触れない状態で発射される必要があります。

・ピンポン玉の数は、経緯を問わず、時間終了後にカゴに入っている数とします。

・ピンポン玉が一つもカゴに入らなかった場合は０点とします。

・他のチームが意図的に協力するなどの行為（いわゆるチーミング行為）であると主催者が判断した場合は、関わったチームすべてを失格扱いとし、「玉入れ」の得点が０点となります。

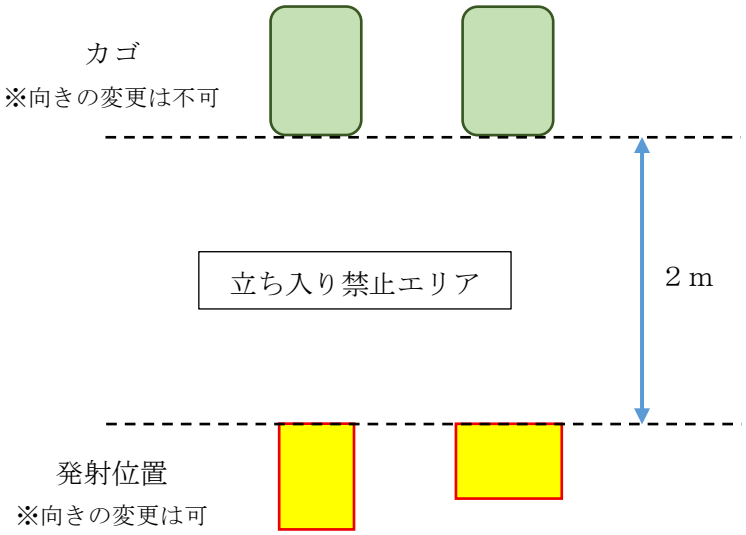


図１　発射位置とカゴ

○第２種目「橋」

長机の上に、配付された材料だけで橋（橋桁のみ）を作ります。製作した橋の上に PET ボトル（角型 500mL・飲料入り）を載せ、その本数と未使用のＡ４コピー用紙の枚数で得点を競います。

・【橋の得点】＝【載せた PET ボトルの数〔本〕】×8＋【未使用のＡ４コピー用紙の数〔枚〕】とします。ただし、【橋の得点】が 100 点を超えた場合は、一律 100 点とします。なお、未使用のＡ４コピー用紙があっても、【載せた PET ボトルの数】が 0 本の場合は一律に得点を 0 点とします。

・橋の規格：**図２**のように各チームの長机２つを 50cm 離し、黄色のＡ４用紙１枚（材料の 30 枚には含まれない）をそれぞれの机上に置き、そこからはみ出さない範囲で橋を接地します（黄色のＡ４用紙は長机からはみ出さなければ置く向きは自由。ただし、図のようにＡ４用紙の一辺が長机の端と一致していること）。黄色のＡ４用紙の範囲内であれば、形態は自由です（橋２本なども可能）が、机に紙で結ぶなどをして橋を机に固定してはいけません。

・【未使用のＡ４コピー用紙の数〔枚〕】：使用しなかったＡ４コピー用紙の枚数を、PET ボトルを載せる前に計測します。

・【載せた PET ボトルの数〔本〕】：Ａ４コピー用紙を計測後、司会者の合図で全チーム一斉に PET ボトルを 10 秒以内に 1 本ずつ載せていきます。載せる PET ボトルは、10 本を上限とします。10 秒以内に載せられなかったもの、橋が崩れたもの、載せていた PET ボトルが途中で落下したものは失敗となり、その時点で競技終了とし、そこまでに【載せた PET ボトルの数〔本〕】を記録します。

注意点１　競技で配付する PET ボトルを加工してはいけません。

注意点２　PET ボトルを乗せるのが可能なのは、設置した橋のうち、黄色のＡ４用紙と重なった部分以外です。

注意点３　2 本目以降の PET ボトルを載せるとき、制限時間内であれば、以前に載せた PET ボトルの位置を調整することは構いません。ただし、調整の際に橋が崩れた場合は失敗となり、そこまでに【載せた PET ボトルの数〔本〕】を記録します。（次に載せようとした PET ボトルは【数】に数えません。）

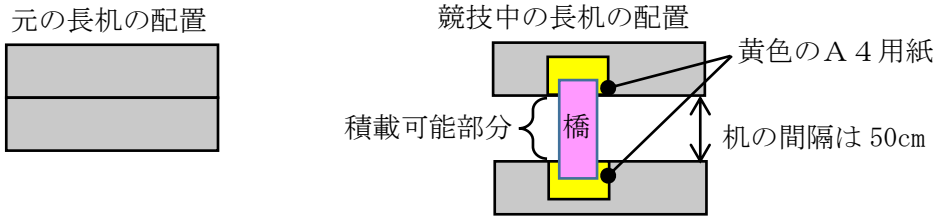
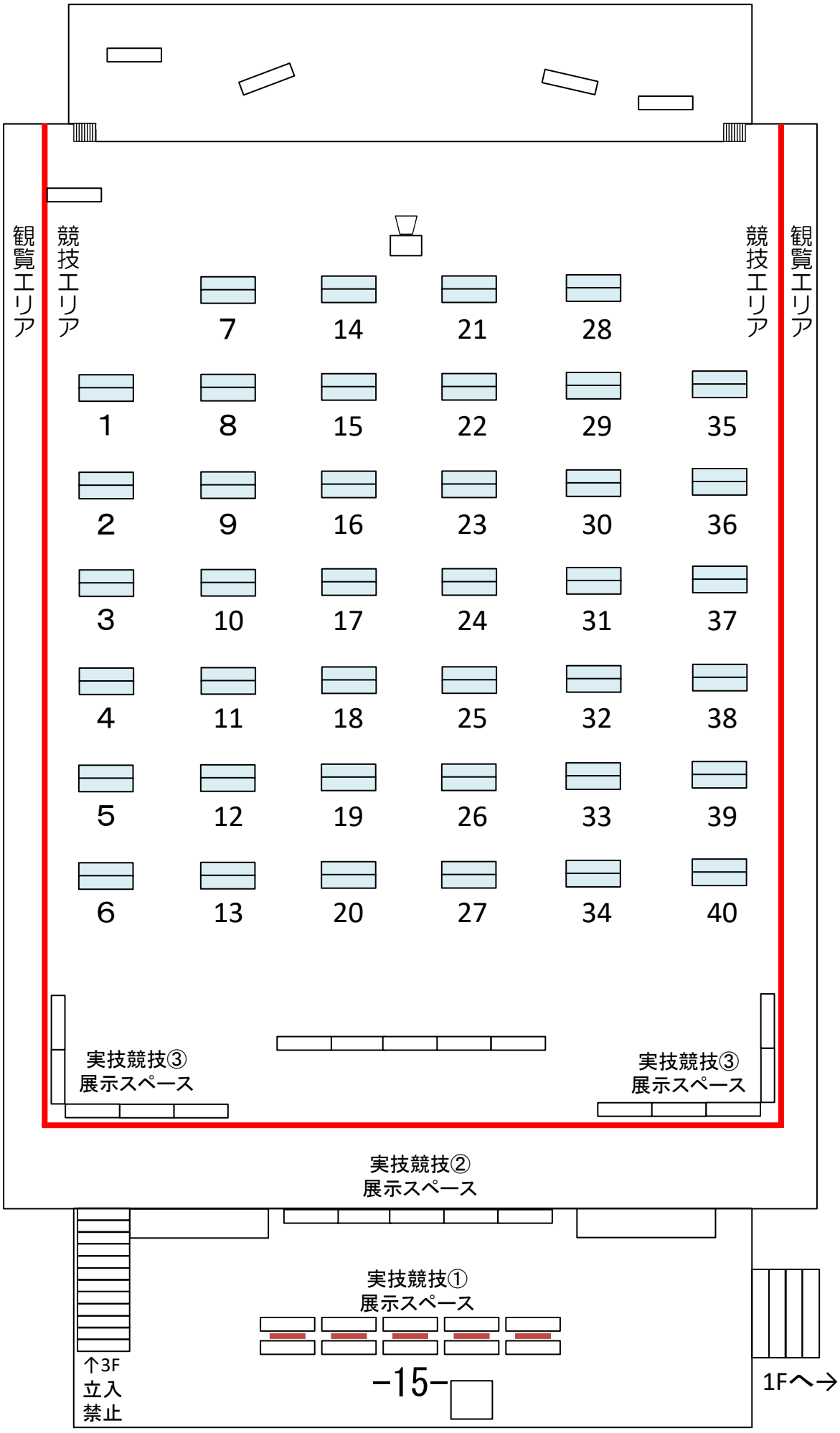


図２　長机の配置と橋

サイエンスチャレンジ岡山2026　会場図



サイエンスチャレンジ岡山2026